

別添1

都市再生整備計画(第1回変更)

寒河江中央地区

山形県 寒河江市

平成23年9月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	寒河江市	地区名	寒河江中央地区	面積	3,600 ha
計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標

- 大目標：市街地などの安全・安心性の向上やうるおいとやすらぎ、にぎやかさの創出を目指します。
- ＜目標1＞ 安全で安心して暮らせる市民生活の形成から、防災機能の向上を目指します。
 - ＜目標2＞ 公園整備などによりみどりの創出などを図り、市民にうるおいとやすらぎを与える空間形成を目指します。
 - ＜目標3＞ 商店街活動の活発化などを図り、にぎやかさの創出を目指します。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・寒河江市は山形県のほぼ中央、山形盆地の西部に位置し、東北横断自動車道酒田線をはじめ、村山地域と庄内地域を結ぶ国道112号、村山地域と置賜地域を結ぶ国道287号、村山地域と最上地域を結ぶ国道458号を有し、また、近隣都市と連結する主要地方道が中心市街地から放射状に伸びるなど、道路交通の要衝となっています。一方、最上川、寒河江川や葉山、月山、朝日連邦などの山河に囲まれ、市街地内にも自然が多く残されているなど、自然が豊かな都市です。近隣都市との関係では、山形市に通勤・通学する割合が高い一方で、県立高校2校、県の総合出先機関、寒河江中央工業団地などがあり市外から本市に通勤・通学する者も多く、西村山地域の中心の役割を担っています。

市域は13,908ha、南北に細長い形状で市の西部及び北部にある森林が5割を超える状況です。

昭和29年、2町5村が合併し本市が誕生、昭和45年をマイナスのピークに人口は緩やかな増加傾向を示し、平成17年国勢調査で人口43,625人、12,598世帯、高齢化率24.8%、人口増加(H12より+246人)とともに高齢化(H12より+2.3%)が進んでいます。

・寒河江市の中心地は、JR左沢線(フルーツライン)寒河江駅の東側地域で本市のほぼ中央に位置し、最も人口集積が高い区域ですが、近年は人口減少や高齢化が進んでいます。市役所、市立図書館、ハートフルセンター(寒河江市総合福祉保健センター)などの行政サービス施設が集積するとともに、数多くの寺社や寒河江公園(長岡山)、沼川、ニノ堰などを有し、歴史と文化、自然にあふれ旧家の街並みを形づくっています。

駅前には寒河江駅前土地区画整理事業(平成4年度～平成17年度)により市の顔として新しく生まれ変わりましたが、商店街としての賑わいづくりはこれからです。他の商店街については集客施設の撤退や郊外型大規模店舗の進出などにより、中心性が低下しています。その中で、フローラSAGAE(核店舗撤退後、平成14年度より市が所有)が市運営で商業施設として維持され、その通りでもある都市計画道路柴橋日田線の県街路事業に合せた沿道の街並み形成とそれにより活性化が図られるよう地元協議会でまちづくり活動が進められています。他の商店街においても、どまん中市やチェリーカード、イルミネーションなどの他、各種イベント活動や、自分の住んでいる身近な地域を魅力的なところにしていくグラウンドワークなどの活動も行なっています。また、寒河江木の下土地区画整理事業(面積16.7ha計画人口1,100人、平成15年度～平成24年度)が市街地としてのまとまりや新たな宅地化による人口の増加を図り、中心地の人口減少に歯止めをかけるために展開されています。

さらに、「歩きたくなるみち500選」や「ふるさと歴史百選」などの自然や歴史・文化性を踏まえたまちづくり、良好な住宅地の保全と形成、さくらんぼや花と緑・せせらぎに力を注いだまちづくりを市民、企業、行政が一体となって進めています。この動きは平成21年度、街なか連携協議会が結成されてからさらに加速しており、体系的なまちづくりの展開へとつながることが期待されています。

・中心地の周辺部においては道路のネットワーク不足や生活サービスの相対的低下などがみられますが、環境の良さにあふれています。中心地との連携や同程度のサービス水準といったこともありますが、何よりも安全安心な暮らしの確保が求められています。

課題

寒河江市は商店街の衰退が進むなど、中心地としての魅力が失われていく状況にあります。駅前土地区画整理事業の完了や、新たな安心して暮らせる住宅地を提供する木の下土地区画整理事業の展開、フローラSAGAEの市運営による商業活動の維持の他、様々な地元活動が行なわれています。

課題については、平成18年度から22年度の寒河江地区都市再生整備計画の事後評価で整理された達成されたことや残された未解決の課題、新たな課題を踏まえて以下のように整理しました。

市民ギャラリーによる歴史・文化の核づくりや木の下地区の住宅地整備と道路の新設・改良を行ったことによる街なかのネットワーク化、商店街のイメージアップなどによる賑わいづくりへの取り組み、街路灯フラワーバスケット設置事業や建物誘導事業による美しい街並み形成、イベントを展開しながらの連携活動の仕組みづくりなどを行うことができ、平成21年度には街なか連携協議会が結成され、平成22年度から市民と行政が一体となって取り組み始めました。成果の持続とともに、地震時には甚大な被害が想定されていることから防災機能を向上させるための安全・安心なまちの形成や既存施設を活かした賑わいづくり、うるおいとやすらぎの創出、市民活動の連携などはこれからも取り組む課題としてあり、そしてさらなる利用促進を図るための整備事業などが求められます。

また、事業展開に伴って中心市街地と周辺部との連携など、市全体へ事業効果が波及されてくることで新たな課題としてあり、中心地だけでなく市全体の住みやすさ、暮らしやすさの向上が必要とされ、地域性を踏まえた展開と中心市街地との連携強化が求められます。

＜課題1＞市街地などの安全・安心性の向上

- ・安全安心であることは都市の魅力の一つです。安全、安心なまちにしておくことが必要です。

＜課題2＞美しいまちの形成

- ・うるおいややすらぎが失われつつあり、街が美しいことが求められています。既存空間の保全と活用はもちろんですが、十分に活用できるための整備や新たにみどりの創出を図ることが必要です。

＜課題3＞にぎやかさの創出

- ・施設を活かし生活活動を活発化させるネットワークが不十分であるだけでなく、商店街の活力が低下しています。街なかのネットワークの形成や既存施設を活かした賑わいづくり、商店街の活性化につながる活動の展開、施設を十分に活用できるための整備が必要です。

将来ビジョン(中長期)

「第5次寒河江市振興計画基本構想」の基本構想では将来都市像を「歴史と文化の織りなす気品ただよう美しい都市 寒河江」に、実現に向けたまちづくりの指標を「より美しく」、「より豊かに」、「より元気に」、計画期間は平成18年度～平成27年度としています。その中では、以下のようなことが位置づけられています。

- ・多様な文化を生み出す舞台づくり、歴史美術館の設置、楽しく遊び学べる環境づくり、歴史や文化に触れ学びそして伝える場の創出
- ・美しい景観や伝統的街並み空間の保全・形成、賑わいのある街並み形成
- ・市内アクセス道路の整備、いこいの場としてのポケットパークの整備
- ・情報の提供、各種イベントの開催、地域の元気なまちづくり活動

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値	基準年度	目標値	目標年度
住民満足度(安全・安心度)	%	住民満足度のうち安全・安心度の増加割合	事業効果は住民満足度の向上に現れます。住民が満足する状況が必要であり、安全・安心度の満足度の向上を目指します。		35	H22	40	H27
住民満足度(うるおいとやすらぎ度)	%	住民満足度のうちうるおいとやすらぎ度の増加割合	事業効果は住民満足度の向上に現れます。住民が満足する状況が必要であり、うるおいとやすらぎ度の満足度の向上を目指します。		46	H22	50	H27
空き店舗数	店	中心市街地の空き店舗数	商店街の魅力化の一つに空き店舗をそのままにしておかない状況が必要であり、利活用するなど空き店舗数の増加抑制を目指します。		19	H22	19	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><整備方針1>市街地などの安全・安心性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災機能の向上から市有施設の耐震化を行います。 ○災害時などでの広報機能や生活機能の維持などのための防災施設の整備を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(耐震改修) ・地域生活基盤施設(防災施設) ・関連事業(都市防災総合推進事業)
<p><整備方針2>美しいまちの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たなうるおいやすらぎ、みどりの創出などから公園を整備します。 ○市民に親しまれている公園施設などのさらなる利用促進などを図るための整備を行います。 ○みどりの創出などから生垣整備の支援を行います。 ○市のイメージアップや活動をもっと市民にアピールするため、グラウンドワーク活動の支援を行います。 ○都市計画道路柴橋日田線の良好な街並み形成の誘導やコミュニティの醸成、にぎやかさの向上などを図るためのまちづくり活動の支援を行います。 ○事業の明確化などのため、ワークショップなどを通してうるおいやすらぎなどの計画づくりを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園(工業団地1号公園整備、落衣前公園整備) ・公園(長岡山活用事業、二の堰活用事業、いこいの森活用事業) ・地域創造支援事業(生垣助成推進事業) ・地域創造支援事業(グラウンドワーク推進事業) ・まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援事業) ・事業活用調査(みどりの計画づくり)
<p><整備方針3>にぎやかさの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長岡山をもっと市民のにぎわいの場にするために、長岡山に親子が楽しむことなどができる広場を整備します。 ○回遊性を高めるため、ふれあいの場などとして新たに足湯を整備します。 ○チェリーランドは市を代表する施設の一つであり、魅力の向上や親子連れが楽しめるなどの多様化に対応できるよう整備を行います。 ○歩くことや楽しさの演出などのために、ベンチなどを整備します。 ○既存の街なか施設や整備した施設などを活用して、中心地全体が活性化するためのにぎやか事業を支援します。 ○街なか連携協議会による様々な市民活動が連携し、様々な組織が一体的になる活動を推進するための活動支援を行います。 ○駅前施設を活用して、にぎやかさ創出の社会実験を行います。 ○計画の効率的・効果的な展開や事業効果の確認などのため、事業効果分析を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(国際チェリーパーク活用事業、流鍋馬広場整備) ・地域創造支援事業(街なか温泉回遊事業) ・高質空間形成施設(緑化施設等-いこいのみちづくり事業) ・地域創造支援事業(街なかにぎやか推進事業-市民活動団体や市民などが計画した事業) ・まちづくり活動推進事業(街なか連携協議会活動事業) ・まちづくり活動推進事業(駅前社会実験) ・事業活用調査(事業効果分析) ・関連事業(木の下地区土地区画整理事業、都市計画道路柴橋日田線・下釜山岸線・山西米沢線)

その他

- 地元活動
 - ・都市計画道路柴橋日田線の街路事業に伴う街並み形成や地域の活性化を図るため、平成14年に地元検討組織である上町・六供町まちづくり協議会(平成14年4月、公募により名称を流鍋馬通りまちづくり協議会に変更)が結成され、アンケートや模型づくり、先進地視察などを行いながら、街路事業と一体的なまちづくりを目指して活動しています。
 - ・全市あけてのさくらんぼ祭りや寒河江まつり、雞まつり、寒河江八幡公園の桜まつり、寒河江公園のつつじまつりなどの他、自分の住んでいる身近な地域を魅力的なところにしていくグラウンドワークの活動や商店街におけるどまん中市、はなみずき祭り、チェリーカード、イルミネーションなどの各種イベント活動を行っています。
 - ・寒河江市役所は1967年に建築された黒川紀章氏設計によるもので、平成17年3月に日本建築学会から昭和初期から60年代までを代表する近代の建築物として「近代建築100選」に選ばれました。市役所内には芸術家の岡本太郎氏作のシャンデリア(タイトルは生誕)が豪華さに花をそえています。
 - ・さくらんぼの故郷「道の駅寒河江」(チェリーランド)は年間約50万人(H16年度)が訪れるところであり、平成17年10月に観光社会資本の事例集の一つに選ばれました。
 - ・平成21年度結成された「街なか連携協議会」は、様々な活動が展開するも事業効果にむすびつかない状況などを改善することから、各種団体が連携して一体的にまちづくり事業などに取り組むことで、事業効果を向上させ中心地の活性化に寄与することを目的に組織されました。平成22年度は行政と一体となってまちづくり活動を支援する仕組みを構築し、支援事業がスタートしました。
- 事業評価
 - ・各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実に効果をあげるなどのために交付期間中2回、事業成果や事業の進め方などについての評価・改善や効果の確認と今後のまちづくりの方策の検討などをするための事業効果分析を実施します。その結果については、市民に情報公開します。
- 市民、企業、行政のパートナーシップの継続
 - ・市民、企業、行政がパートナーシップを組み、自分の住んでいる身近な地域を魅力的なところにしていくグラウンドワークの活動を継続します。
 - ・商店街では、どまん中市やはなみずき祭り、チェリーカード、イルミネーションなど、各種イベント活動を継続します。
 - ・都市計画道路柴橋日田線の街路事業後の街並み形成や地域の活性化を図る地元活動を継続します。
 - ・「街なか連携協議会」の取り組みを継続します。
- 平成18年度～22年度まちづくり交付金事業について(平成22年12月事後評価シートより)
 - まちの課題の変化
 - 市民ギャラリーによる歴史・文化の核づくりや木の下地区の住宅地整備と道路の新設・改良を行ったことによる街なかのネットワーク化、商店街のイメージアップなどによる賑わいづくりへの取り組み、街路灯フラワーバスケット設置事業や建物誘導事業による美しい街並み形成、イベントを展開しながらの連携活動の仕組みづくりなどを行うことができました。設定した課題に対して取り組むことはできましたが、安全・安心なまちの形成や既存施設を活かした賑わいづくり、うるおいやすらぎの創出、市民活動の連携などはこれからも取り組む課題としてあります。
 - また、事業展開に伴って中心市街地と周辺部との連携など、市全体へ事業効果が波及されてくるのが新たな課題として浮かび上がってきました。
 - 今後のまちづくりの方策
 - 事業で得た効果の持続を図るための歴史文化施設間の連携や魅力と企画力のあるイベント開催、住宅地の環境増進とさらなる道路ネットワーク化、民地を含めた景観づくり、連携活動の継続などを行います。また、市街地などの安全・安心性の向上や、賑わいにつながるイベントの展開、街なか施設などの利用促進と魅力の向上を図るリニューアル、協働のまちづくりを推進するための連携事業の支援、中心市街地と周辺部との連携強化などを図っていきます。
 - 街なかだけでなく、市全体の住みやすさ、暮らしやすさの向上が必要であるとともに、街なかとその周辺部との連携強化と市民生活における身近なニーズへの対応、さらなるリニューアルを含めた既存ストックの活用などを図るために、総合的かつ一体的に展開することから社会資本整備総合交付金を活用して行っていきます。



道路新設



市民ギャラリー整備事業



街なか温泉施設整備事業



商店街活性化支援事業



建物誘導事業



イベント

都市再生整備計画の区域

寒河江中央地区(山形県寒河江市)	面積 3,600 ha	区域 寒河江市の一部
------------------	----------------	---------------



